

PiT (Program for Intercultural Theater)

実施団体: 兵庫県公立大学法人 芸術文化観光専門職大学

目的・目標

国際舞台で活躍できる劇場人材の育成スキームを確立することを目的とする。劇作家、演出家、プロデューサー、アートマネージャー、舞台美術家、舞台技術スタッフ、俳優、ダンサーなどに創造力だけでなく経営感覚や国際性を涵養し、地域資源と舞台芸術を結びつけ、表現し発信する力を培う。実施する実習やプロジェクトを通じ、地域から世界へ発信できる持続可能な人材育成モデルを育成することで、日本の舞台芸術の国際的プレゼンスを高める。

概要

本学の特色を活かし、語学など海外研修・実習、海外フェスティバル実習、国際共同制作などを体系的に導入した教育プログラムを展開する。学生は企画・制作・マネジメント、創作を総合的に学び、国内外のアーティストや機関との交流を通じ多文化環境で協働する力を習得する。さらに豊岡演劇祭や地域資源と連動し、成果を社会に還元するとともに、地域と世界を結ぶ先進的モデルを提示し、日本の舞台芸術教育の新たな指針を打ち出す。

(区分・分野)
舞台

(対象となる職種)
劇作家・演出家・プロデューサー・アートマネージャー・舞台美術家・舞台技術スタッフ・俳優・ダンサー等

(育成人数)
100名/3年

3年目までの取組

初年度は、海外短期体験研修等を通じ、語学や異文化理解を含む基礎的なリテラシー育成と、国際展開に向けた機運の醸成を図る。**2年目**は、国際舞台芸術フェスティバルへ派遣し、現地でのリサーチやプレゼンテーションに加え、帰国後は豊岡演劇祭と連携して成果を発信する。また、創作した作品の海外ツアー（韓国を予定）を実施する。**3年目**は、海外提携大学等と連携し、国際共同制作を展開。多文化環境における創造と協働の実践力を育む。



芸術文化観光専門職大学×リヨン国立舞台芸術技術学校
日仏国際共同制作『私はいかもめ』（2023年）

5年目までの取組



4年目はプログラムの効果検証を踏まえ育成スキームの制度設計を行う。授業・研修・国際共同制作の成果と課題を整理し、学生・教員・連携機関のフィードバックをもとに改善案を策定。スキルマップや評価基準の見直し、履修モデルの整備を進める。

5年目は「芸術文化観光専門職大学ビジョン2050」に基づき設置された推進室での検討結果も踏まえ、最適化された履修モデルの実装を目指す。

成果目標（見込）	目標値
国際的な活躍に必要なスキル習得のために開発・実証された育成プログラムの数	3年目：23件 5年目：60件
国内外の教育機関・専門機関・企業・団体等との連携数	3年目：47件 5年目：60件
育成プログラムの参加者が世界的に認知されている海外の芸術祭・文化施設・大学等の教育機関への参画や招へいを受けた件数	3年目：20件 5年目：30件
育成プログラムの実証に参加した人数	3年目：100人 5年目：120人

中核となる指導者等

・杉山 至（舞台美術家）

劇場人材の実践的な育成を担う。また舞台美術などの舞台技術者の指導を統括する。プラハカドリエンナーレとの連携窓口となる。

・河村 竜也（アートプロデューサー）

全体の精度設計をし、国内外の舞台芸術系の臨地実習を統括する。



国際的な場での実践の取組例

・国内外ツアー/国際協働制作/フェスティバル実習

『カガクするココロ』（国内、韓国2都市|2年目11～1月）
実習で創作した作品を国内外でツアーをする。

・フェスティバル実習

各国の舞台芸術フェスティバルの運営手法の研究、現地プレゼンの実施と、豊岡演劇祭で成果発表をする。



PiT事業推進委員会

プロジェクトリーダー 小橋副学長
プロジェクトマネージャー 1名

実践部門

- ・海外語学研修・海外実習
- ・舞台芸術実習(海外ツアー/
国際共同製作)・海外フェス
ティバル研修

事前事後研修・特別講座・ワー
クショップ

評価検証部門

- ・ロジックモデル策定
- ・スキルマップ策定
- ・評価・報告書作成

研究部門

・海外比較調査 ・キャリア形成

委託(一部)

外部人材・専門家
外部機関

協力

外部アドバイザー
ボード

協力
依頼

地域事業者

豊岡演劇祭実行委員会
江原河畔劇場
城崎国際アートセンター
他

連携

教育機関

初等中等教育機関
国内外大学・専門学校
等教育機関